

2023 年度第 5 回論文輪読会報告

日時： 2024 年 2 月 18 日（日） 13 : 00~14 : 45

出席者数： 8 名 （講師を除く）

座長： 中川 充 （以下敬称略）

参加形式： オンライン Zoom ミーティング （担当： 関根 達夫）

論文紹介者： 君波 和雄 （会員）

論文名： Lydian M. Boschman, Douwe J. J. van Hinsbergen, and Wim Spakman, 2021, Reconstructing Jurassic-Cretaceous intra-oceanic subduction evolution in the Northwestern Panthalassa Ocean Using Ocean Plate Stratigraphy From Hokkaido, Japan.

雑誌名： *Tectonics, Research Article*, [10.1029/2019TC005673](https://doi.org/10.1029/2019TC005673).

論点：

1. 日高山脈西縁のイドンナップ帯には、付加された海洋内島弧（奥新冠孤）の残骸が露出している（Ueda and Miyashita, 2005）.
2. 奥新冠孤は付加体形成の 4500 万年前の 145Ma 頃に外洋で活動を停止した。その原因はイザナミ-太平洋海嶺の沈み込みに伴って、イザナミスラブが切断・沈下したためと考えられる。
3. 海嶺沈み込みに起因する約 145Ma のプレート再編成は、北西太平洋プレートの磁気異常方位の変化に反映されている。
4. イドンナップ帯とその南方延長の西南日本外帯は、ユーラシア大陸縁辺の海溝ではなく、背弧海盆を挟んで東側にあった海溝で付加したと考えられる。

彼らは奥新冠孤の成長プロセスをイメージするためのモデル構築を行なった。その際、フィリピン海海盆の成長プロセスが参考にされたが、そのアナロジー的扱いには多くの疑問点があることが批判的に紹介された。

なお、本論文の抄訳は、「総合地質 第 7 巻 1 号」の論文紹介に掲載されている。

高波 鐵夫 （報告者）